

蔵出しお宝ニュース

— 第 12 号 —

三原市歴史民俗資料館では、本年度より所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。本紙では、資料館内で長らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と、行事の案内・紹介などを随時行って参りたいと思っております。

広島ホームテレビ 資料館を取材

11月下旬、広島ホームテレビが資料館を取材してくださり、12月3日（月）の「Jステーション」で放映されました。先日放映されたNHKの「お好みワイドひろしま」をご覧になられて、ぜひ広島ホームテレビでも資料館の取り組みを紹介したいという思いであられたようです。ナウマンゾウやのぞきからくり、甲冑などが撮影されましたが、中でも三原の代名詞の1つと言えるやっさ踊りの、初めてレコード化された音源が三原らしいということで興味を示しておられました。



撮影の様子

取材当日の午後から行いました刀剣手入れ講座も、来館者の生の声を聞きたいということで取材してくださいました。この講座は資料館1階ロビーで開催いたしましたので、15名の定員といたしました。前半は刀剣を所有するにはどのような手続きがあるかということを知っていただく講義で、後半は講師が刀剣の手入れの作法を模範で示し、それを見ていただいた後、実際に受講者の皆様にも刀剣の手入れをグループごとに行っていただきました。刀剣類は錆が大敵ですので、時々油を塗り替える手入れが重要です。刀剣の手入れといえば高尚な響きですが、道具が揃っていれば1振が5分くらいで

できるものです。受講された方々も熱心に取り組んでくださり、我々もうれしかったです。このような文化行事も、資料館と市内外の皆様とのつながりを持つ場として続けて参りたいと思っております。

この日はあいにくの雨模様でしたが、取材班の皆様、刀剣手入れ講座参加の皆様には、わざわざ資料館へお運びいただきましてありがとうございました。

和裁の模型 見つかる

資料館収蔵庫内の整理もようやく目途がたちそうな様子になって参りました。このほど収蔵庫内のたんす箆笥から、明治時代頃に使われた和裁の模型が見つかりました。小さなものですが、すべて手縫いで本物の反物を用いて仕立ててあります。内容は女性用の着物や袴はかま、男性用の袴や袴かみしも、股引ももひき、チョッキなど 20 点です。おもしろいものは、嫁入り道具に用いるたんすおおい箆笥覆の模型です。生地に染められる紋は、紙を丸く切ってそれらしく貼ってあります。



おそらく和裁の教材として使われていたものと思われます。大変きれいな状態で保存されていたため、中でも見て楽しめるものを1階ロビーの蔵出しお宝ミニ展示コーナーで公開しております。

お正月や成人式などで晴れ着を着る季節が近づいてきました。おもしろい資料ですので、ぜひご覧ください。



(左) 裁縫道具と袴・箆笥覆・チョッキ
(上) ミニ展示展示全体の様子

おき どこ しゅん じゅう
置 床 春 秋



掛物 三井 萬里 筆
大石内蔵助 遊興図
(三原は“忠臣蔵”と大変ゆかりのあるまちです。)
下二 火事装束・陣太鼓
花入 瓢箪 花 季のもの

発行 平成 24 年 (2012) 12 月 17 日
〒723-0015 三原市円一町 2 丁目 3-2
(三原市立中央図書館北隣) TEL 0848-62-5595
三原市歴史民俗資料館 山崎愛一郎 編集
※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用な
らないようお願い申し上げます。